第１号議案

2021(令和 3) 年度事業報告書~~(案)~~

特定非営利活動法人　性暴力被害者支援センター・ひょうご

１．事業の実施に関する成果

【直接支援事業】

- 新型コロナウイルス感染により 2021(令和 3)年度も二度にわたる緊急事態宣言中には支援員の出務制限を行い、また感染予防を徹底して活動した。
- 2021(令和 3)年度の電話相談は 478 件で前年度の 322 件より増加した。
- 面接相談(付添支援・アウトリーチ含む)は、のべ件数 74 件で前年度の 88 件より減少した。しかしながら、面接相談の内訳として医療の付添が 19 件に対し面接のみ 20 件であったこと、オンラインによる面談を実施したことが特徴として挙げられる。
- メール相談件数は前年度 89 件から微増し、のべ 92 件、実人数は 42 人である。電話相談に 9 人、うち 2 人に面接相談を行った。前年度に引き続きトラウマに見識のある臨床心理士からスーパーバイズを受けた。
- アウトリーチとして、中学校へ出向き教職員からの相談を受けたり、要保護児童対策地域協議会に参加しスーパービジョンを行った。関係機関に性暴力が被害者に与える影響等の情報提供を行い、被害を受けた子どもを孤立させない連携の在り方を話し合った。アウトリーチを実践しながら、定義や活動の枠組みを再構築している。

【支援員養成研修事業】

- 支援員(アドボケーター)養成講座は隔年での開催としており、2021(令和 3)年度は開催しなかった。仕事とボランティアの両立の困難さや、設立 10 年を前に当初から関わってきた支援員の引退などがあり支援員の確保が急務である。
- 二度の緊急事態宣言のため、対面での事例検討会やスーパービジョンの開催は 4 回であった。コロナ禍以前に比べ、二年連続して事例検討会の開催が 2 分の 1 となった。より良い支援を持続していくには、事例検討会は不可欠と痛感している。
- 「DV について」や「刑法改正の見直しの動き」のオンライン研修を行った。
- 支援員のリフレッシュのためにオンラインでヨーガを実施した。
- 内閣府、厚生労働省、警察庁、民間機関それぞれが主催するオンライン専門研修(テーマ:若年層予防啓発、子どもの再被害防止、トラウマインフォームドケア等)に、のべ 9 人が参加した。

【予防啓発事業】

- 7 月 15 日　第 14 回尼崎市性教育講演会
  「性的同意と性教育」や「女性のヘルスケア」をテーマに、尼崎市産婦人科医会・尼崎市小児科医会・尼崎市医師会・尼崎市教育委員会・あすか製薬株式会社との共催で開いた。
- 12 月 19 日　有園基金コラボ企画「トラウマ×コミュニティ～有園基金でつながる・ひろがる・深まる」
  フェミニストカウンセリング神戸、ウィメンズネットこうべ、男女共同参画ネット尼崎と共同で開催した。えんたく会議というワークショップ方式で実施し、架空事例をもとにトラウマインフォームドの視点から話し合った。
- 〈講演活動〉
  オンラインと対面を併せて 42 ヶ所から依頼があった（別紙参照）。うち 13 件が「学校で性暴力被害がおこったら～被害・加害児童生徒が同じ学校に在籍している場合の危機対応の手引き」をテーマに、県内外の学校や教育委員会、相談機関、他道県のワンストップセンター、内閣府から依頼があった。「独自に作成したい」という自治体や養護教員、医師会からの問い合わせもあり、支援の現場でのニーズを実感した。「危機対応の手引き」は、新聞(WEB 含む)、ツィッター上でも紹介された。
  性教育は中学校、特別支援学級、特別支援学校、児童自立支援施設で実施した。
  尼崎市第 3 回いくしあ職員研修会に出前講座を実施した(有園基金助成事業)。
- 〈広報・ウェブ〉
  ホームページとリーフレットを、ユニバーサルデザイン（＝私たちができることを誰にでもわかりやすく伝える）を目指しリニューアルした(有園基金助成事業)。

ウェブで支援機関を検索でき、メールで相談が行えるバーチャルワンストップ支援センターの運営が兵庫県立尼崎総合医療センターから移管された。①支援機関を精査し関係機関に出向き掲載確認作業を行う　②関係機関の集まりを持ち情報共有する　③安全な管理・運営に関わる指針の作成　④医療機関にアクセスしやすいビジュアル的に工夫をホームページに反映させるなどリニューアルに向けた課題がある。

【交流連携事業】

- 自助グループに連絡を取り、ホームページへの継続掲載の了承を得た。
- ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」から再委託を受けて、県内の産婦人科医を対象に「性暴力被害者への医療対応」をテーマにした医療者向け研修を録画配信で実施した。阪神間、県北部・西部、淡路島など県内全域からの参加があり、関心の高さが伺えた。

【組織基盤強化】

- 通常の支援活動に加え、支援員の希望を募ってメール相談・性教育、アウトリーチ、ウェブ・ユニバーサルデザインの各チームを作って活動してきた。会計担当を軸にした会計チームも継続している(有園基金助成事業)。
- 2023 年に設立から 10 年目を迎える「支援センター・ひょうごのこれから」を模索するワークショップを、有園基金の伴走支援制度を利用し実施した（1 月 15 日、3 月 19 日)。支援員・運営委員・理事の率直な思いや今後のイメージ・アイデイアを出し合う機会となった。支援体制の見直しを含め、引き続き話し合っていく。

２．事業の実施に関する事項

定款の事業名	プロジェクト内容	実施月 実施回数	実施場所	件数・人数等/年
（1）直接支援事業	①電話相談	平日 9:30～16:30	法人事務所	478 件 (相談 387 無言 41 到着 50)
	②面接相談(付添支援・アウトリーチ含)	随時	県内協力医療機関等	のべ 74 件 (うち診察付添 19 件　アウトリーチ 3 件) 事案数 40 件
	③メール相談	随時	法人事務所	のべ 92 件
（2）支援員養成研修事業	①支援員養成講座	開催なし		
	②支援員研修 ミーティング、ワークショップ、専門研修、事例検討会、スーパーバイズ等	年 13　回	県立尼崎総合医療センター	のべ 138 人
（3）予防啓発事業	①各種団体における講演(性教育、出前講座含む)	42 講演	中学校・大学、教職員、行政、相談機関、民間団体、警察署、医療機関など	
	②性教育研究会	年 2 回 8 月 6 日 11 月 12 日	神戸市勤労会館	18 人 13 人
	③有園基金コラボ企画(共催)	1 回 12 月 19 日	トレピエ	19 人
	④性教育講演会（共催）	7 月 15 日		85 人
（4）交流連携事業	①自助グループとの連携	随時	ホームページ掲載	

	②DV 支援連絡会(HYVIS)	6 回	あすてっぷ KOBE 他	
	③性暴力救援センター全国連絡会代表者会議	1 回 7 月 3 日	オンライン	32 団体
	④内閣府主催 ワンストップ支援センターセンター長・コーディネーター研修及び全国ネットワーク会議	2 月 28 日	オンライン	52 団体
	④兵庫県被害者支援連絡協議会		関係機関の活動を書面共有	新型コロナウイルス感染拡大防止により中止
	⑤DV 防止ネットワーク ひょうご DV 防止ネットワーク 尼崎市 DV 防止ネットワーク	1 回 11 月 9 日 11 月 25 日	オンライン	
	⑥尼崎市内の女性ネットワーク あまがさき女性フォーラム(パネル展示)	1 回 11 月 28 日	尼崎市女性センター ・トレピエ	
	⑦性暴力被害者対応検討部会	6 回	県立尼崎総合医療センター	
	⑧「性暴力被害者のためのバーチャルワンストップ支援センター」ウェブ整備	随時		

３．その他の事業

定款の 事業名	プロジェクト内容	実施月 実施回数	実施場所	対象者
物品販売事業	実施なし			

４．事業実施体制

（１）会議に関する事項

① 2021 年度総会（2021 年 5 月　15 日）

② 理事会　年 2 回

③ 運営委員会　月 1 回（原則第 3 土曜日）

（２）事務局体制

事務局長：福岡ともみ、　事務局スタッフ：鍋谷美子

（３）その他

① テレワークの活用

・会計チームを継続し、会計作業の効率化を図ってきた。

・2020 年度に続き、緊急事態宣言下で支援・運営に関わる引継ぎを充実させた。

② 運営委員会・事例検討会、テレワークでの託児体制

③ ホームページの保守(随時)リニューアル

④ 通信の発行（7 月、12 月）